

みらいインターナショナルスクール 教育理念と方針

当園では、アメリカの幼児教育プログラム「クリエイティブ・カリキュラム」を導入しております。本カリキュラムは、子どもを「主体的に学ぶ存在」と捉え、一人ひとりの興味や関心を出発点として、遊びを通じた探究的な学びを大切にする教育です。

また、本園のカリキュラムは英語で実施しており、子どもたちは日々の活動や遊び、友だちや保育者との関わりを通して、自然な形で英語に触れ、理解を深めていきます。言語としての英語を「学ぶ」のではなく、生活や体験の中で「使う」ことにより、無理のない形で英語力を育んでいきます。

幼児期から英語環境の中で過ごすことは、単に語学力を身につけるだけでなく、異なる文化や価値観に対する柔軟性や受容力を育てることにもつながります。また、英語で考え、表現する経験を重ねることで、思考の幅が広がり、将来の学びや国際的な場面においても自信を持って行動できる力の基盤を築きます。

日々の保育においては、ブロック遊びやごっこ遊び、造形活動、自然との関わりなど、多様な体験を通して、子どもたちが自ら考え、試し、工夫する機会を重視しています。その中で、言語力、思考力、表現力、社会性といった、将来にわたり必要となる力をバランスよく育んでいきます。

また、特定のテーマに基づくプロジェクト型の活動を取り入れ、子どもたちの「なぜだろう」「もっと知りたい」という探究心を大切にしながら、学びを深めていきます。

保育者は一方的に知識を教えるのではなく、子どもの姿を丁寧に観察し、適切な働きかけや環境構成を通して学びを支援する役割を担います。

なお、本園ではテストや点数による評価は行わず、日々の活動や観察をもとに、子ども一人ひとりの成長の過程を大切にしています。

当園は、「知識の習得」にとどまらず、「自ら考え、主体的に学び続ける力」を育てることを教育の柱としております。

🔑 基本の考え方

- 子どもは「教えられる存在」ではなく 📌 自分で学ぶ力をもっている存在
 - 大人は先生というより 📌 学びをサポートするガイド役
-

😊 学びのスタイル(これが一番の特徴) 📌 勉強っぽい「座学中心」ではない

● 遊び=学び(Play-based learning)

- ブロック・ごっこ遊び・制作・外遊びなど全部が学び
 - 「楽しいことに集中する」中で言葉、数、社会性、問題解決力が育つ
-

🔄 教育の軸(よく見られる力) 📌 「正解を覚える」より 📌 考えるプロセスを大事にする

- 自分で考える力(思考力)
 - 表現する力(言葉・アート)
 - 人と関わる力(社会性)
 - 自分でやろうとする力(主体性)
-

🏠 保育・授業の進め方

● プロジェクト型(探究学習) 📌 子どもが「なんで？」と思うことを広げていく

- 例:「虫」「水」「お店」などテーマを決める
 - 子どもの興味からスタート
 - 数日～数週間かけて深掘り
-

● 環境づくりが超重要 📌 環境そのものが「先生」

- ブロック・アート・読書など
 - 子どもが自分で選べる
 - 本物に近い素材(リアルな道具)
-

😊🏠 先生の関わり方

- 指示は少なめ
 - 観察を重視
 - 子どもの言葉を拾って広げる
 - 例: ✕「これはこうするの！」
 - 例: ○「どうしてそう思ったの?」「他に方法あるかな?」
-

📊 評価の仕方 📌 点数ではなく 📌 成長のプロセスを見る

- テストはほぼなし
 - 日々の様子を観察
-

JP 日本の一般的な幼児教育との違い(ざっくり)

- 日本:集団行動・指示理解がやや重視
 - クリエイティブカリキュラム:個性・主体性重視
-

🌟 まとめ

このカリキュラムは

📌 「自分で考えて動ける子を育てる」教育

- 勉強を早くやらせるより
- 「学ぶ力そのもの」を育てる